

「敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造
敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性」
及び

「敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造
K断層と原子炉建屋直下を通過する破碎帯との連続性」
に係る審査資料の誤記について

令和6年6月28日
日本原子力発電株式会社

目次

1. はじめに	3
2. 審査資料の誤記について	5

1. はじめに

本資料は「敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性」及び「敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造 K断層と原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性」(以下,「審査資料」)について, 誤記を確認したため, その修正内容を取りまとめたものである。

誤記等の一覧表では, 変更・副次的変更・修正・再評価・追加・削除(以下,「変更等」)の分類※を合わせて示す。

※ 分類の定義

- 変更 : 従前提示していたデータから再観察により取得したデータに変えること。
- 副次的変更 : 関連データの変更等に伴い, 従前提示していたデータが変わること。
- 修正 : 誤記, 転記等の間違いを正すこと。
- 再評価 : 副次的変更のうち連続性評価(破砕帯分布の検討)を再度実施した結果に変わる箇所については再評価と分類する。
- 追加 : 説明資料を追加すること。
- 削除 : 説明資料を削除すること。

なお, これらの誤記については, 審査資料では修正したものを使用する。

余白

2. 審査資料の誤記について

審査資料について、以下の一覧表記載の誤記を新たに確認した※¹ため、前後比較資料を6頁以降に示す。

審査資料の誤記一覧表

No.	審査資料頁	修正前	修正後	誤記の理由	分類	頁
1	令和6年5月31日 審査資料 資料1-1-1 3-19頁 (※2)	【回答要旨】 K断層の破砕部 「…(平均69.9cm, 最大353.7cm)…」	【回答要旨】 K断層の破砕部 「…(平均71.7cm, 最大355.7cm)…」	資料作成時の記載の誤り	修正	6
2	令和6年5月31日 審査資料 資料1-1-1 [12/17] (※3)	コメント一覧 回答要旨(当該頁) K断層の破砕部 「…(平均69.9cm, 最大353.7cm)…」	コメント一覧 回答要旨(当該頁) K断層の破砕部 「…(平均71.7cm, 最大355.7cm)…」	No.1の誤記に伴う誤り	修正	7
3	令和6年3月22日 審査資料 資料3-2-3 22頁 (※4)	性状一覧表の 対象ボーリング孔名 「性状一覧表(H24-ReB14-2)」	性状一覧表の 対象ボーリング孔名 「性状一覧表(H29-ReB14-2)」	転記ミス	修正	8

※1 以下の資料で提示した内容からの追加

- ・令和5年11月10日審査会合、資料1-2『「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」の誤記について』
- ・令和6年3月22日審査会合、資料3-4『「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」及び「敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性」(審査資料)の誤記について』
- ・令和6年5月31日審査会合、資料1-4『「敦賀発電所発電用原子炉設置変更許可申請書(2号発電用原子炉施設の変更)添付書類の一部補正」及び「敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造 K断層と原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性」(審査資料)の誤記について』

※2 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)

- ・令和6年6月6, 7日 現地調査 資料 活-1 3-19頁

※3 以下の資料についても同じ内容の誤記有り(ヒアリング・面談資料については省略)

- ・令和6年6月6, 7日 現地調査 資料 活-1 [12/17]

※4 以下の資料についても同じ内容の誤記有(ヒアリング・面談資料については省略)

- ・令和6年6月6, 7日 現地調査 資料 連-4 22頁

No.1 前後比較資料(1/1)

K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の誤り(No.1)	
修正前	修正後
令和6年5月31日提出 敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性 資料1-1-1 3-19頁 【コメントNo.現地調査-21】【コメントNo.1239-4】 【回答要旨】 K断層の破砕部 「…(平均69.9cm, 最大353.7cm)…」 【コメントNo.現地調査-21】 D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるのか、説明すること。 【コメントNo.1239-4】 K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。 【回答要旨】 K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」平均69.9cm, 最大353.7cm」としている。 K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。 基盤岩中のK断層の破砕部は、熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジから構成されているが、カタクレーサイトは第四系に変位・変形を与えていない。したがって、K断層のうち、カタクレーサイトは古い時代に活動したものであり、断層ガウジの最新活動面に着目する。熱水変質を伴うカタクレーサイトの幅はトレンチ南方に進むにしたがって狭くなる傾向が認められる。 また、D-1トレンチの①層から③層中の地層境界や層相境界を変位基準としたK断層の鉛直変位量は、北西法面付近から南方の1-1ビットに向かってやや増加し、さらに南方の原電道路ビット及びふげん道路ビットにかけて急激に減少している状況が認められる。 K断層は、ふげん道路ビットにかけて鉛直変位量が急激に減少していること、破砕部の幅が南方に進むにしたがって狭くなっており、破砕部の規模が小さくなっていることから、K断層の活動が及んだ範囲としては、地表面でせん断面が追えているふげん道路ビット付近まで確認している。 No.1 K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の誤り	【コメントNo.現地調査-21】 D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるのか、説明すること。 【コメントNo.1239-4】 K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。 【回答要旨】 K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」平均71.7cm, 最大355.7cm」としている。 K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。 基盤岩中のK断層の破砕部は、熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジから構成されているが、カタクレーサイトは第四系に変位・変形を与えていない。したがって、K断層のうち、カタクレーサイトは古い時代に活動したものであり、断層ガウジの最新活動面に着目する。熱水変質を伴うカタクレーサイトの幅はトレンチ南方に進むにしたがって狭くなる傾向が認められる。 また、D-1トレンチの①層から③層中の地層境界や層相境界を変位基準としたK断層の鉛直変位量は、北西法面付近から南方の1-1ビットに向かってやや増加し、さらに南方の原電道路ビット及びふげん道路ビットにかけて急激に減少している状況が認められる。 K断層は、ふげん道路ビットにかけて鉛直変位量が急激に減少していること、破砕部の幅が南方に進むにしたがって狭くなっており、破砕部の規模が小さくなっていることから、K断層の活動が及んだ範囲としては、地表面でせん断面が追えているふげん道路ビット付近まで確認している。 No.1 K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の修正

No.2 前後比較資料(1/1)

コメント一覧 K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の誤り(No.2)																																															
修正前			修正後																																												
令和6年5月31日提出 敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性 資料1-1-1 [12/17頁] 【コメントNo.現地調査-21】【コメントNo.1239-4】 回答要旨(当該頁) K断層の破砕部 「…(平均69.9cm, 最大353.7cm)…」 敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性に係る審査会合及び現地調査コメント【本日説明分】 <table><tr><th>No.</th><th>日付</th><th>回次</th><th>区分</th><th>コメント内容</th><th>回答要旨(当該頁)</th></tr><tr><td>現地調査-21</td><td>令和5年 12月14,15日</td><td>第1回 現地調査</td><td>K断層の分布 及び性状(コ ア観察)</td><td>D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。</td><td>K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均69.9cm, 最大353.7cm)としている。</td></tr><tr><td>1239-4</td><td>令和6年 3月22日</td><td>第1239回</td><td>K断層の分布 及び性状</td><td>K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。</td><td>K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。</td></tr></table> [12/17] No.2 K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の誤り						No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答要旨(当該頁)	現地調査-21	令和5年 12月14,15日	第1回 現地調査	K断層の分布 及び性状(コ ア観察)	D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。	K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均69.9cm, 最大353.7cm)としている。	1239-4	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の分布 及び性状	K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。	K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。	敷地内のD-1トレンチ内に認められるK断層の活動性に係る審査会合及び現地調査コメント【本日説明分】 <table><tr><th>No.</th><th>日付</th><th>回次</th><th>区分</th><th>コメント内容</th><th>回答要旨(当該頁)</th></tr><tr><td>現地調査-21</td><td>令和5年 12月14,15日</td><td>第1回 現地調査</td><td>K断層の分布 及び性状(コ ア観察)</td><td>D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。</td><td>K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均71.7cm, 最大355.7cm)としている。</td></tr><tr><td>1239-4</td><td>令和6年 3月22日</td><td>第1239回</td><td>K断層の分布 及び性状</td><td>K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。</td><td>K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。</td></tr></table> [12/17] No.2 K断層の破砕部 平均幅, 最大幅の修正						No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答要旨(当該頁)	現地調査-21	令和5年 12月14,15日	第1回 現地調査	K断層の分布 及び性状(コ ア観察)	D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。	K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均71.7cm, 最大355.7cm)としている。	1239-4	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の分布 及び性状	K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。	K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。
No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答要旨(当該頁)																																										
現地調査-21	令和5年 12月14,15日	第1回 現地調査	K断層の分布 及び性状(コ ア観察)	D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。	K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均69.9cm, 最大353.7cm)としている。																																										
1239-4	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の分布 及び性状	K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。	K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。																																										
No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答要旨(当該頁)																																										
現地調査-21	令和5年 12月14,15日	第1回 現地調査	K断層の分布 及び性状(コ ア観察)	D-1破砕帯に比べ、K断層の破砕幅は広く、資料から読み取ると、平均で約1mとなっている。このような規模の断層がふげん道路ビットの南端で消滅すると判断することができるか、説明すること。	K断層の破砕部は、「熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」(平均71.7cm, 最大355.7cm)としている。																																										
1239-4	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の分布 及び性状	K断層の性状について(コメントNo.現地調査-21)、K断層は「基盤岩中は断層ガウジからなる」としている一方で、補正申請書において「破砕部は熱水変質を伴うカタクレーサイトと断層ガウジからなる。」と記載されていることを踏まえ、再度説明すること。	K断層の最新活動は、第四系まで逆断層の変位・変形を与えている。D-1トレンチ1-1ビット南面において、堆積時期の異なる①層、②層及び③層を変位基準とした変位量は概ね一定であり、断層変位の累積性は認められないことから、K断層の活動は第四系の①層堆積以降で1回と判断した。																																										

No.3 前後比較資料(1/1)

性状一覧表 ボーリング孔名の誤り(No.3)

修正前

令和6年3月22日提出
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造
K断層と原子炉建屋直下を通過する破碎帯との連続性
資料3-2-3 22頁

性状一覧表の対象ボーリング孔名

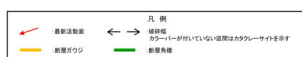
No.3

性狀一覽表(H24-ReB14-2) (1/1)

令和5年10月6日提出資料 修正

[illegible]

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「－」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しにくい成分については「－」を記載（両成分「－」は薄片観察を行っていない箇所）
 ※4 破砕幅及び断層ガウジ・断層角縁の幅は実幅を記載
 （上記以外）：データを取得していない箇所



22

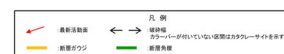
修正後

No.3 ボーリング孔名の修正

性狀一覽表(H29-ReB14-2) (1/1)

[illegible]

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「－」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「－」を記載(商成分「－」は薄片観察を行っていない箇所)
 ※4 破砕幅及び断層ガウジ・断層角礫の幅は実幅を記載
 -(上記以外): データを取得していない箇所



22